

三 鳳凰高校一年生の甲二さんは、出身中学校の進路講演会に招かれ、後輩の中学生たちに高校での学習についてスピーチすることになった。そこで、次の文章（「セメント樽の中の手紙」葉山嘉樹）を教材に学習した現代文の授業について紹介することにした。あとの問いに答えよ（解答欄の位置に注意すること）。

松戸与三はセメントあけをやっていた。外の部分は大きく目立たなかったけれど、頭の毛と、鼻の下は、セメントで灰色に蔽われていた。彼は鼻の穴に指を突っ込んで、鉄筋コンクリートのように、鼻毛をしゃちこばらせている、コンクリートをとれたかっただが一分間に十才ずつ吐き出す、コンクリートミキサーに、間に合わせるためには、とても指を鼻の穴に持つて行く間はなかった。

彼は鼻の穴を気にしながらとうとう十一時間、——その間に昼飯と三時休みと二度だけ休みがあつたんだが、昼の時は腹のすいてる為にも一つはミキサーを掃除していて暇がなかったため、とうとう鼻にまで手が届かなかった——の間、鼻を掃除しなかった。彼の鼻は石膏せっこう細工の鼻のように硬化しようだった。

彼が仕舞時分に、ヘトヘトになった手で移した、セメントの樽から小さな木の箱が出た。

「何だろう？」と彼はちよつと不審に思ったが、そんなものに構つて居られなかった。彼はシャベルで、セメント樽にセメントを量り込んだ。そして榊から舟へセメントを空けると又すぐその樽を空けに

「だが待てよ。セメント樽から箱が出るって法はねえぞ」

彼は小箱を拾つて、腹かけの井の中へ投げ込んだ。箱は軽かった。

「軽い処を見ると、金も入っていないええようだな」

彼は、考える間もなく次の樽を空け、次の榊を量らねばならなかった。

ミキサーはやがてからまわりを始めた。コンクリがすんで終業時間になった。

彼は、ミキサーに引いてあるゴムホースの水で、ひとまず顔や手を洗った。そして弁当箱を首に巻きつけて、一杯飲んで食うことを専門に考えながら、彼の長屋へ帰って行った。発電所は八分通り出来上つていた。夕暗にそびえる恵那山は真っ白に雪を被つていた。汗ばんだ体は、急に凍えるように冷たさを感じ始めた。彼の通る足下では木曾川の水が白く泡を噛んで、吠えていた。

「チエッ！ やり切れねえなあ、かかあは又腹を膨らかしやがったし、……」彼はウヨウヨしている子供のことや、又此寒さを目がけて産うまれる子供のことや、滅茶苦茶に産むかかあのを考えると、全くがっかりしてしまった。

「一円九十銭の日当の中から、日に、五十銭の米を二升食われて、九十銭で着たり、住んだりべらぼうめ！ どうして飲めるんだい！」が、フト彼は井の中にある小箱の事を思い出した。彼は箱についてるセメントを、ズボンの尻でこすった。

箱には何にも書いてなかった。そのくせ、頑丈に釘づけしてあった。「思わせ振しやがらあ、釘づけなんぞにしやがって」彼は石の上へ箱を打ぶつ付けた。が、壊れなかったもので、此の世の中でも踏みつぶす気になって、自棄やけに踏みつけた。

彼が拾った小箱の中からは、ボロに包んだ紙切れが出た。それにはこう書いてあった。

私はNセメント会社の、セメント袋を縫う女工です。私の恋人はクラッシュヤーへ石を入れることを仕事にしています。そして十月の七日の朝、大きな石を入れる時に、その石と一緒に、クラッシュヤーの中へ嵌まりました。

仲間の人たちは、助け出そうとしましたが、水の中へ溺れるように、石の下へ私の恋人は沈んで行きました。そして、石と恋人

の体とは砕け合つて、赤い細い石になって、ベルトの上へ落ちました。ベルトは粉砕筒へ入つて行きました。そこで鋼鉄の弾丸と一緒に

になって、細く細く、はげしい音に呪いの声を叫びながら、砕かれました。そして焼かれて、立派にセメントとなりました。

骨も、肉も、魂も、粉々になりました。私の恋人の一切はセメントになってしまいました。残つたものはこの仕事着のボロボロです。私は恋人を入れる袋を縫っています。

私の恋人はセメントになりました。私はその次の日、この手紙を書いてこの樽の中へ、そうと仕舞い込みました。

あなたは労働者ですか、あなたが労働者だったら、私を可哀相だと思つて、お返事下さい。

この樽の中のセメントは何に使われましたでしょうか、私はそれが知りとう御座います。

私の恋人は幾樽のセメントになったでしょうか、そしてどんなに方々へ使われるのでしょうか。あなたは左官屋さんですか、それとも建築屋さんですか。

私は私の恋人が、劇場の廊下になったり、大きな邸宅の塀になったりするのを見るに忍びません。ですけれどそれをどうして私に止めることができましょう！ あなたが、若し労働者だったら、此セメントを、そんな処に使わないで下さい。

いいえ、ようございませう、どんな処にでも使つて下さい。私の恋人は、どんな処に埋められても、その処々によつてきつという事をします。構いませんわ、あの人はきしようのしつかりした人ですから、きつとそれ相当な働きをしますわ。

あの人は優しい、いい人でしたわ。そしてしつかりした男らしい人でしたわ。未まだ若うございました。二十六になったばかりでした。あの人はどんなに私を可愛がつてくれたか知れませんでした。それなのに、私はあの人に経帷布を着せる代りに、セメント袋を着せているのですわ！ あの人は棺に入らないで回転窯の中へ入つてしまいましたわ。

私はどうして、あの人を送つて行きました。あの方は西へも東へも、遠くにも近くにも葬られていくのですもの。

あなたが、もし労働者だったら、私にお返事下さいね。その代り、私の恋人の着ていた仕事着のきれを、あなたに上げます。この手紙を包んであるのがそののですよ。このきれには石の粉と、あの方の汗とがしみ込んでいます。あの方が、このきれの仕事着で、どんなに固く私を抱いてくれたことでしょう。

お願いですからね。このセメントを使つた月日と、それからくわしい所書と、どんな場所へ使つたかと、それにあなたのお名前も、御迷惑でなかったら、是非々々お知らせ下さいね。あなたも御用心なさいませ。さようなら。

松戸与三は、湧きかえるような、子供たちの騒ぎを身の廻りに覚えた。彼は手紙の終りにある住所と名前を見ながら、茶碗に注いであつた酒をぐつと一息にあおつた。

「へべれけに酔つ払いてえなあ。そうして何もかもぶち壊して見てえなあ」と怒鳴つた。

「へべれけになって暴れられて堪るもんですか、子供たちをどうします」

細君がそう云つた。彼は、細君の大きな腹の中に七人目の子供を見た。

問一 この文章が書かれた時代を、次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 明治 イ 大正 ウ 昭和 エ 平成

問二 この文章のジャンルを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 写実主義 イ 自然主義 ウ プロレタリア文学 エ モダニズム文学

問三 この文章の語り手のねらいとしてふさわしくないものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 労働者の悲惨な状態を訴える。 イ 労働者の団結を促す。

ウ 資本家階級への対抗意識を植え付ける。 エ 古典的なものを書き出し、前衛的な価値を作り出す。

問四 テキストの創作と受け止め方について、文化的・歴史的文脈はどの程度重要か。あなたの考えを述べなさい。

問五 甲二さんは、後輩の中学生に高校での学びの面白さを伝えたいと考え、現代文の「セメント樽の中の手紙」の授業について紹介することにした。そして、中学生の興味関心をひきつけるために、特にスピーチの冒頭と末尾を工夫することにした。あなたが甲二さんだとしたら、スピーチの冒頭と末尾においてどのような工夫を凝らし、どのような内容を話するか、詳細に述べよ（冒頭と末尾のいずれを選んでも評価には影響しない）。以上